

地域社会における神社境内の役割と機能 - 明石市中尾住吉神社を事例として

大阪産業大学大学院 人間環境研究科 クム・ウチャン
大阪産業大学 人間環境学部 金澤成保

1. 研究の目的と方法

神社建築については、おもに建築史学の観点から多くの研究成果が蓄積されているが、神社境内についての研究はあまり多くない¹⁾。この論文は、兵庫県明石市中尾住吉神社を対象に実施した、地域社会におけるその役割と機能についての調査の報告はおこなうものである²⁾。

中尾住吉神社は、5世紀住吉大明神を分霊して祀ったのが始まりと伝えられるが、2万4000平方メートル余りの社叢は「神奈備の森」と呼ばれ、勧請以前から存在していたと考えられる。瀬戸内海に突き出す台地の上に立地している。秋の大祭のほか節分祭や夏祭などの行事も多く、楼門、能舞台などが市の文化財に指定されている。境内地は、昭和29年に明石市住吉公園となった。

調査は、当該神社の地元住民と境内を訪れた人に対するアンケート調査と、境内での人々の行動観察調査の2つの方法をとった。地元として選んだのは、秋の大祭の屋台を保持している、西岡、大見、中尾、西島とそれらに囲まれる住吉の5つの自治会である。アンケートの有効回答の合計は45票であった³⁾。行動観察調査は、平日と休日の朝から夕方にかけての4つの時間帯で実施した⁴⁾。

2. アンケート調査の結果

実施したアンケートは、被験者の年齢、性別、居住地、居住歴、氏子であるかどうかの質問と、以下でまとめる項目からなっている。選択肢の「その他」の内容を記入する欄と最後の自由記入欄以外は、質問項目ごとに用意された選択肢から選ぶ方法をとっている。地元住民は在宅する家を訪問し、境内利用者にはアンケートの協力を依頼して被験者に記入してもらっている。被験者の属性ごとにおこなった分析の結果もふくめ、アンケート調査の結果を項目ごとにまとめると以下の通りになる。

1) 神社が近くにあるとよいか

	はい	いいえ	total
全体	39	6	45

ほとんどの人が住吉神社に対して、何かしらの好意を抱いていることがわかる。しかし、一部、特に10年以上住んでいる若年世代は、あまりいいと思っていない割合が高い。

2) いいと思う理由(複数回答可)

	散歩コースになる	緑が多い	心が癒される	お参りしやすい	祭に参加しやすい	子供の遊び場になる	その他	total
全体	26	17	12	17	12	10	5	99

「散歩コースになる」という意見がもっとも多いほかは、ほぼ同じような割合でいろいろな良い点があると思われていることがわかる。「散歩コースになる」がもっとも多かったのは、被験者に高年令世代が多く、彼らがおもに散歩に行くことが反映している。若年世代は、「子供の遊び場」や「緑が多い」を選んだ人が多かった点や、中年世代には「祭に参加しやすい」の項目を選ぶ人も多かった。

3) 月に何回この神社を訪れるか

	ほぼ行かない	月に1度	月に2,3度	週に1度	週に2,3度	毎日	無回答	total
全体	23	1	6	1	7	6	1	45

3分の1の人は週に1度は来ているが、全体の約半数はほとんど神社に来ていないと答えており、よく神社に行く人とほとんど神社に行かない人とに2極化している。よく神社に来る人は、神社のすぐ近くの地域に長い間住む高年世代の氏子に多いことがわかった。

4) この神社に不満を持つか

	はい	いいえ	total
全体	8	37	45

1)の神社が近くにあるとよいかの質問と、ほぼ正反対の数字となった。不満を持っている人は、中尾や西岡など住吉神社のすぐ近くに住んでいる人に多いという偏りもある。また若年世代は、神社に対していい所も不満もないと答える率が高かった。

5) 不満を持つ点(複数回答可)

	落ち葉が多い	虫が多く発生する	虫の音がうるさい	動物が多い	動物の糞尿が多い	夜暗くて怖い	その他	total
全体	0	0	0	2	5	3	2	12

不満を持っている人は約半数の人が動物の糞尿に不満があり、「夜暗くて怖い」ことや、その他意見で「不審者が多い」、「駐車など土地利用の問題」など、様々な意見があった。

6) この神社のために何か活動をしているか

	はい	いいえ	total
全体	12	33	45

4分の3にのぼるほとんどの人は、活動はしていないと答えている。この神社のために何か活動をしている人は、30年以上住んでいる60歳以上の氏子に多いことがわかった。

7) どのような活動をしているか(複数回答可)

	境内の清掃	祭、行事の手伝い	寄付・寄進	その他	total
全体	5	6	6	1	18

長い間住んでいる中年世代は「祭りや行事の手伝い」で神社に協力している人が多く、氏子は「寄付・寄進」という形で協力している人が多い。また神社の近くに住んでいる人は、「境内の清掃」を協力している人が多い。

8) 年間いくらこの神社に寄進できるか

	1000円未満(払わない)	1000~5000円	5000~1万円	1万~2万円	2万~3万円	3万円以上	無回答	total
全体	14	14	4	3	2	2	6	45

この質問には、無回答の人が若干いた。1万円以上寄進するという人は全体の1割強しかいなくて、後はほとんどが5000円未満なら寄進できるという結果になった。神社に近い地域で30年以上住んでいる高年令世代の氏子は、1万円以上の寄進を選択する人が多かった。逆に氏子以外の人では、ほとんどの人が寄進はしない、もしくは少ししか寄進しないという大きく分かれた結果になっている。

9) この神社と地域との関係は、これからどうなっていくか

	活発	変わらない	廃れる	無回答	total
全体	2	30	11	2	45

「神社と地域との関係」も活発になっていくと考えている人はほとんどいなくて、神社の祭りや行事は大体の人が現状維持のままであろうと考えていることがわかる。しかし4分の1の人は廃れていくのでは、と危惧している人もいる。

廃れていくと考えている人も、Q10と同じで長い間住んでいくにしたがって増えているという結果になっている。

10) この神社と地域との関係は、これからどうなってほしいか

	活発な関係	変わらない関係	薄れていく関係	無回答	total
全体	18	23	3	1	45

神社のより活発な関係を願う人は、実際の神社の将来を考えた時とは違って、半数近くいることがわかる。そして神社の存在は薄れていくべきだと考えている人はほとんどいないこともわかる。

より活発な関係を願う人は若年・中年世代に多い。

11) その他の意見、コメント

14件の記入があった。意見を大きくまとめていくと、

- ・神社をもっと安全な所にして、子供の遊べるような訪れやすい所にして。
- ・神社と地域とのつながりが薄くなってきているので、もっと神社と地域のつながりを活性化して欲しい。
- ・もっと神社の魅力を多くの人に知らせていくべきではないか。

の3点にわけることができる。

3. 行動観察調査の結果

晴れの日を選び、平日、土曜日とも、7:00~7:30、10:00~10:30、13:00~13:30、16:00~16:30の時間帯で、境内での行動観察調査を実施した。用意した境内の地図に、歩いている、走っている、座っている・止まっている、遊んでいる、その他の行動および特記事項を時間帯ごとに記入した。

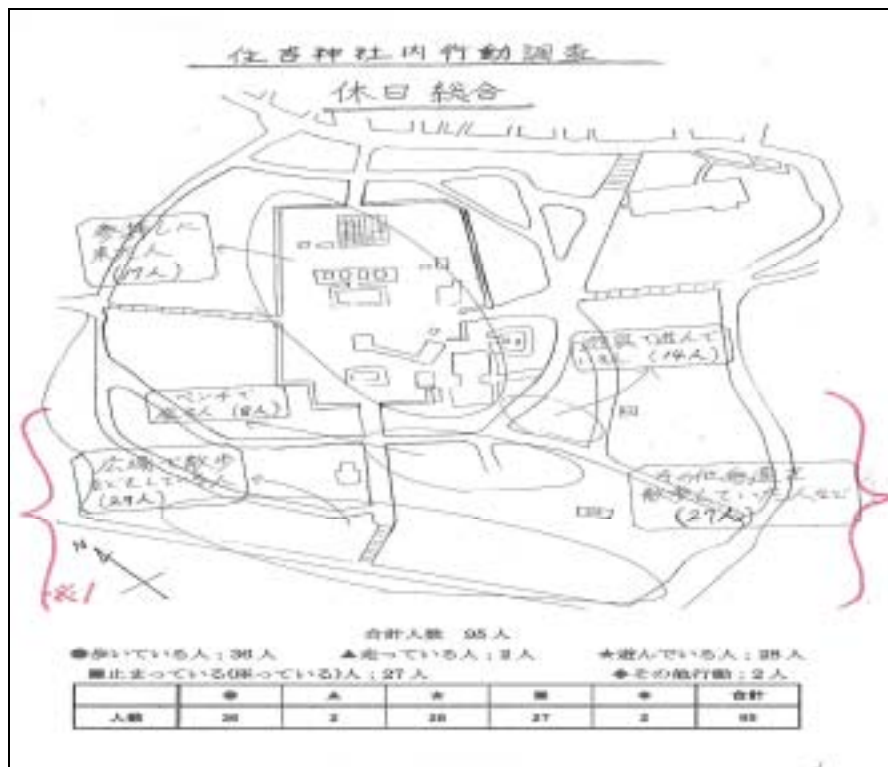


図1 行動観察の結果(休日総合)

その結果、おもに以下のことが明らかになった。を比較対照していきたい。神社敷地内全てで比較対照してみると、まず合計人数は休日のほうが多い。しかも行動の分類を比較してみると、休日は遊んでいる人が平日に比べて非常に多くなっているが、それ以外の行動の分類はあまり人数が変わっていないという結果であった。さらに、休日では「広場で散歩などをしている人」と「遊具で遊んでいる人」が多くなっていたが、それ以外では平日とあまり変化がなかった。

また時間帯別に平日・休日を比較していくと、一番神社内人口が多かった時間帯は、平日ではお昼前の10時、休日では夕方16時であった。逆に神社内人口が少なかった時間帯は、平日ではお昼の13時が特に少なく、休日では夕方16時以外は平均してほとんど同じ数の人がいた、という違いがあった。

そして次に南側広場の利用状況を比較対照してみると、ここでも合計人数は休日のほうが多い。そして休日では「歩いている人」「遊んでいる人」「止まっている人(座っている人)」の人数が、それ以外の行動はあまり平日と変化がないのに、平日よりも多くなっている。その中でも「遊んでいる人」は平日が2人であるのに休日では28人にも増えている。

以上のような比較対照の結果から導き出されることは、神社を訪れる人々で神社境内のお参りをしたり、参道を散歩したり、広場のベンチから海を眺める人は平日・休日ほぼ変わらず一定の人が訪れていることがわかる。しかし休日になると、それに加えて南側広場を利用して遊んでいる人が大きく増えるというものである。

4. まとめと考察

アンケート調査の結果、住吉神社に対して人々は、大きな公園としての存在にほとんど人は好意を抱いている。しかし、神社によく行く人とほとんど行かない人とでは大きく2分化されていて、よく行く人のほうが少ない。ほとんど行かない理由として、「変質者・不審者の恐怖」や「あまり街灯がないため夜暗くて怖い」、「祭り以外神社にあまり魅力がない」、「神社と地域とのつながりが薄くなってきている」などといった意見があった。神社の将来の活性を望む人は全体のほぼ半数近くにのぼっており、その中でも若者世代は特にその傾向が強い。若者世代の意見や希望などをくみ取る工夫が、神社や自治会に必要なのではないか。

境内の行動調査とそのとき実施したヒヤリングの結果、「住吉神社内に散歩に行く(犬の散歩も含めて)」「住吉神社にお参りする」「神社から見ることで景色を眺めにくる」という神社ならではの魅力が目的で来る人と、「広場で遊ぶ」「広場から大きく広がる海を眺めにくる」というほぼ公園と同じような広場の持つ魅力が目的で来る人の2つに、大きく分けることができる。平日は仕事や学校があるためか朝の時間帯以外はほとんど老人の方ばかりが境内を訪れており、休日は、全時間帯で平日よりも多くの年代を問わない人が訪れていることがわかった。

参考文献

- ・「中尾のすがた むかし・いま」(明石市中尾土地区画整理組合 編) [1989]
- ・「明石の風物1 住吉神社」(山口 徳二郎) [1964]
- ・「魚住村誌」(魚住村誌編集委員会 編) [1957]
- ・「住吉神社の御由緒」(中尾住吉神社パンフレット)

注記

- 1) 境内地の変容や管理については、加藤見規等の名古屋の事例研究(1982, 1983年、都市計画学会論文集)、台湾における神社境内の形成・変容については青井哲人の研究(1999年、建築学会計画系論文集、境内での近隣住民の行動については 西池華子等の報告(1997年、建築学会大会梗概集F-1分冊)がある。
- 2) 高井源による大阪産業大学人間環境学部卒業研究の調査結果に基づく。
- 3) 実施期間は、平成16年10月下旬から12月中旬であったが、多くのケースで回答を拒否されたため、サンプル数が少なくなった。
- 4) 実施日は、平成16年12月6日(月)、8日(水)、12日(日)である。